

平成29年度第1回さぬき市史編さん委員会 会議要旨（要約）

- 1 日 時 平成29年6月1日（木）午前9時30分～午前11時30分
- 2 場 所 さぬき市寒川公民館第三会議室
- 3 出席者 【委員】8名
後井良行、熊田正美、松岡民義、川崎登、鈴木珠美、大垣博信、
松田朝由、十河信二
【事務局】向井健二（総務部長）、富田久仁（総務部秘書広報課課長）、出口俊明（総務部秘書広報課市史編さん委員会事務局長）、安富眞司（総務部秘書広報課市史編さん専門員）、鶴身昌大（総務部秘書広報課主査）
【業務委託者】株式会社ぎょうせい（2名）
- 4 会議次第
 - (1) 報告 前回委員会以降の状況について
 - (2) 議題1 編さん作業の工程について
議題2 目次構成の考え方について
 - (3) その他
- 5 会議内容
 - 事務局から報告事項「前回委員会以降の状況」について説明
 - ・平成29年1月26日開催の委員会以降の変更点（執務室・体制など）について事務局より報告
 - 事務局から議題1「編さん作業の工程」について説明
 - ・現在までの主な決定事項、資料の収集状況、工程表について事務局より説明
 - (委員) 不足している資料がどれくらいなのか見える形で示してもらわないと心配になる。また、資料の有無で目次の構成も変わってくると思うが、それに見合った工程表になっているのか。
 - (事務局) 収集してぎょうせいに送った資料もあるが、まだ不足している資料もある。ただ、資料の収集作業自体は印刷に入る最後の最後まで行っていく作業であると考えている。
資料の収集状況を示したものについては、この夏頃から初校原稿が上がってくるが、それらもこれまで送付した収集資料を基に原稿化されているので、不足資料なども確認することができるのではないかと考えている。
 - (委員) 今年度事務局の体制も充実されたが、資料の収集などが過不足なく行われ、編さん事業もスピードアップができる見込みはあるのか。
 - (事務局) 昨年度までの体制では作業を行う際の判断に迷い、資料の収集などの作

業を行うのにも時間を要したが、現在の体制では相談しながら作業ができています。今後も工程表に沿って、効率的に作業ができるように進めてまいりたい。

(委員) 工程表にある初校原稿の確認作業は委員が行う作業なのか。内容の真偽、資料の裏付けなども委員に求められるものなのか。

(事務局) 昨年度に実施した各町の年表に対する確認作業のような意見交換を考えている。原稿の内容等に関する確認作業については事務局が行っていくが、原稿に対する各委員の率直なご意見などを頂ければと考えている。

(委員) 年表の確認作業もかなり委員として労力を費やしたが、原稿のように何ページにもなるものを確認するようになるのは不安だ。

(事務局) 初校原稿の内容に関する事実の真偽などの確認は基本的に事務局で行うものと考えている。編さん委員会としては、刊行物の全体的な方向性などを決定してもらえればと考えている。

(委員) 各委員との確認作業を終えた年表はどのようなになっているのか。

(事務局) 委員から頂いたご意見や事務局での確認事項をまとめて、ぎょうせいに送っている。現在ぎょうせいは初校原稿の執筆作業を進めているが、意見などが反映された年表を送ってもらうよう確認したい。

(委員) 今年度は、ひとまず全体の目次構成が分かるような初校原稿が示されると思うが、その時点で共通する項目とそれぞれの項目とを抽出していくと、二度手間になる恐れがあるのではないか。

作業として原稿化してから抽出していくのも有りだと思うが、最初に目次案を固めてからの方がいいとも感じる。

(事務局) 各町の独自の項目は、ある程度抽出することは可能だが、原稿化したそれらの項目の中から共通する項目に該当するものがあれば動かしていくことも考えている。

また逆に各町にまたがるような項目を共通する項目で原稿化していき、そこから分解して各町に割り振ることも可能であると考えている。そのために、まずは原稿化し、第2校、第3校と校正をしていって、割り振りをしていくようにしたい。

確かに二度手間になることも考えられるが、原稿化して文章となった時点でないと、共通する項目に入れた方がいいものなのかが見えてこない部分があるため、原稿化していきながらの検討作業にした方がいいと考えている。

(委員) 分量として大量になってしまうが、他の町の原稿の様子も見て、5町の全体像を把握したいので、そういう機会を設けてもらいたい。

(事務局) 項目の内容の多い少ないも確認をしていく必要があるため、できるだけ5町の原稿が確認できるような機会を設けられるように検討したい。

(委員) 初校原稿の意見交換について、当日に受け取って、すぐに意見交換をする

のではなく、意見交換の日から1か月ほど前に事務局から初校原稿についての説明を受けて、そこから期間を設けて委員自身で確認をしてから意見交換ができるようにしてもらいたい。

(事務局) 初校原稿を確認する期間を考慮して、意見交換の日程調整を行うようにしたい。

(委員) これまでの話を聞いて、委託業者であるぎょうせいの意見を確認したい。

(ぎょうせい) まだ原稿化されてない部分もあるため正直見えてこないが、事務局も新体制になって資料も順次送られてきている。それで書けるところは書いていき、原稿の全体像を見てもらって、そこで資料が不足している項目や目次構成の具体的なやりとりを事務局としていくようになると考えている。

また、各町の意見交換や5町全体での確認作業などをどの程度行っていくか、事務局と決めていかなければならないと考えている。

(委員) 内容の濃淡によって各町のバランスが崩れないか不安である。そのバランスを調整しながら、原稿化していくようにしてもらいたい。

また、編さん事業に対して市民の関心を醸成させるような方法についても検討してもらいたい。こういうことをしていると言うような周知を考えてもらいたい。

○事務局から議題2「目次構成の考え方」について説明

(委員) 次回の委員会では5町の初稿原稿は揃っているか。それらを委員と意見交換をしたのちに、委員会を開催できそうか。

(事務局) 委員に初校原稿を確認してもらった上で委員会を開催する予定である。

(委員) もう少し各町の個性が出せるような目次にできるように柔軟に検討してもらいたい。

(事務局) 現段階の目次案を基にこれから原稿化していくようになるので、原稿化してから目次の過不足などの確認ができればと考えている。

(委員) 意見交換などが反映された年表がぎょうせいから送られてきたら、5町全体を確認するために5町分の年表を委員に送ってもらいたい。その年表を見て、次に進めていくための準備にしたい。また、各委員から目次構成についてなど意見を受ける体制を整えてもらいたい。

次回の全体の委員会は年度末になるのか。その際、補遺の全体像が分かるようになっているのか。初校原稿の意見交換の結果報告だけになるのか。次回委員会をどのようなものにするのかを事務局としてよく検討してもらいたい。